

『夜雨滴録』の語彙分析

中 島 正 明

A Report on *Yau Tekiroku* Using Vocabulary Analysis

Masaaki NAKASHIMA

1. は じ め に

読書指導に関する研究を進めている過程で、何気なく取り上げた『夜雨滴録』の中に読書についての記述を見いだした。『夜雨滴録』は本学に赴任した際に、学園から受領したものである。

読書に関しては、「第三章 結婚 二、結婚の準備（二）教養を高める 2 卒業後の読書による勉強」において○良書を選ぶ○乱読するな○読書の時間という三点について述べられている。いずれの内容も、現代における読書の指導方法の要点として指摘されている事柄である。

その記述によると、安田リヨウは、「読書は心の食物」「読書は心の糧」であり、読まないことは「心に物を食べさせないことになって文化人として生きられない。」「一家を経営するには、できるだけ知性教養を高めるものを熟読して、経済、交際から衣・食・住の知識、子女を養育するには幼児の心理、身体の発育、衛生理、栄養学の研究と実習、病人の看護と手当等わきまえなければならない知識、常識がたくさんあります。」と学校卒業後における良き妻、賢い母として読書することの大切さを力強く主張している。

最近よく耳にするテキスト・マイニングという研究方法について関心はあったが、その手法を導入するまでの力量はない。それでも『夜雨滴録』を読み進めていくうちに、少なくとも著者の考えの基本的構想や枠組みは、使用されている語句の分析によって説明されるのではないかということに気づいた。

そこで、語彙分析をするために、まず一冊まるごと「指と眼」で読みながら入力してテキストファイルを作成した。次に、そのファイルを基にして、章、節、項目、本文のフィールドで構成されるデータベースを構築した。（ファイルメーカープロを使用）

本報告は、序文と目次に223頁の本文を加えた全内容を対象として、先頭から一つずつ語句を切り出した。122,291文字から、4,639語を選び出した。今回は、その概要の一部を紹介するものである。ひょっとしたら何かすばらしいものが見つかるかも知れないという希望的前提に基づく取り組みであり、研究の分析方法としていささか不安を抱えていることは否定できない。

研究が偶然のきっかけから大きく飛躍することは、先人達の伝記などから広く知られている。今回の語彙分析が読書指導研究の飛躍に繋がることを期待している。

2. 語 彙 の 分 析

(1)全体での語句頻度

No.	品詞	語句	箇所
1	文末	あります。	614
2	名詞	自分	188
3	名詞	料理	185
4	副詞	よく	179
5	動詞	考え	160
6	名詞	家庭	133
7	文末	ありません。	126
8	文末	なりません。	106
9	接続詞	ですから、	102
10	名詞	場合	101
11	名詞	皿	100
12	名詞	言葉	95
13	文末	申します。	95
14	名詞	紙	92
15	名詞	仕事	89
16	名詞	客	88
17	名詞	礼	88
18	名詞	席	85
19	名詞	女子	77

No.	品詞	語句	箇所
20	名詞	姓	77
21	名詞	日本	77
22	名詞	経済	72
23	形容詞	多い	69
24	名詞	生活	65
25	名詞	男子	62
26	名詞	結婚	58
27	名詞	夫	57
28	名詞	教育	55
29	名詞	女性	55
30	名詞	他人	55
31	接尾語	ども	55
32	名詞	学校	54
33	名詞	座	53
34	副詞	常に	52
35	名詞	使用	51
36	名詞	同様	51
37	名詞	一つ	51
38	副助詞	ばかり	50

最も頻度の高いのは、文末の「～であります。」という表記である。名詞は、「自分」「料理」「家庭」「場合」「皿」が100回以上使用されている。動詞は、「考え」だけである。意外に副詞が多く使用されている。

(2)品詞別の語句頻度

①名詞・代名詞の頻度（数値は、20回以上使用箇所。降順とする。）

No.	語句	数
1	自分	188
2	料理	185
3	家庭	133
4	場合	101
5	皿	100
6	言葉	95
7	紙	92
8	仕事	89
9	客	88

No.	語句	数
10	礼	88
11	席	85
12	女子	77
13	姓	77
14	日本	77
15	経済	72
16	生活	65
17	男子	62
18	結婚	58

No.	語句	数
19	夫	57
20	教育	55
21	女性	55
22	他人	55
23	学校	54
24	座	53
25	使用	51
26	同様	51
27	一つ	51

No.	語句	数
28	一人	48
29	身体	47
30	相手	46
31	就職	44
32	人間	44
33	心得	43
34	手紙	43
35	母	43
36	社会	42
37	妻	42
38	文化	41
39	器	40
40	玄関	40
41	父	40
42	服装	40
43	時間	39
44	嫁	39
45	一家	38
46	衣服	37
47	食事	37
48	日々	37
49	子供	36
50	先方	36
51	態度	36
52	膳	35
53	老人	35
54	頭	34

No.	語句	数
55	以上	34
56	家族	34
57	時代	34
58	姓名	34
59	主人	33
60	のし	33
61	平和	33
62	本人	32
63	目的	32
64	ナイフ	31
65	紹介	30
66	先生	30
67	フォーク	30
68	外国	29
69	人々	29
70	化粧	28
71	名前	28
72	用件	28
73	あなた	27
74	準備	27
75	床	27
76	気持ち	26
77	国民	26
78	姑	26
79	日本人	26
80	私ども	26
81	挨拶	25

No.	語句	数
82	わが国	25
83	昔	25
84	人格	24
85	箸	24
86	流行	24
87	みんな	24
88	相手方	23
89	研究	23
90	習慣	23
91	卒業	23
92	返事	23
93	問題	23
94	注意	22
95	婦人	22
96	考え方	21
97	無駄	20
98	兄	20
99	健康	20
100	ご飯	20
101	作法	20
102	道德	20
103	場所	20
104	右手	20
105	洋食	20
106	一度	20

20回以上使用される名詞は106語であり、知識の世界の広さを物語る。

②形容詞の頻度（数値は、11回以上使用箇所。）

No.	語句	数
1	多い	69
2	悪い	35
3	若い	28
4	立派	24
5	小さい	21
6	美しい	20
7	良い	19

No.	語句	数
8	高い	17
9	大きく	14
10	大きい	13
11	よいこと	12
12	いけない	12
13	悪いこと	11

形容詞の使用は、意外に少ない。

③形容動詞の頻度

No.	語句	数
1	普通	42
2	非常に	31
3	必要	31
4	十分	28
5	大切	28
6	いろいろ	23
7	特別	23
8	立派な	20
9	失礼	18
10	きれいに	17
11	丁寧	17
12	普通の	17

No.	語句	数
13	大へん	16
14	大変	16
15	同様	15
16	高価な	14
17	清潔	13
18	本当	13
19	愉快	13
20	邪魔	11
21	不足	11
22	丁寧に	11
23	平和な	10

形容動詞の使用は、形容詞に比べると多いことがわかる。

④副詞の頻度（数値は、10回以上使用箇所。降順とする。）

No.	語句	数
1	よく	179
2	常に	52
3	必ず	48
4	たくさん	45
5	実に	44
6	決して	37
7	最も	36
8	すべて	35
9	はなはだ	32
10	お互い	29
11	あまり	27
12	そのまま	27
13	少しも	22
14	時には	22
15	一般に	21

No.	語句	数
16	たとえ	21
17	全く	21
18	よほど	21
19	早く	20
20	一向	19
21	特に	19
22	一緒に	17
23	結構	17
24	互いに	17
25	まことに	17
26	誠に	17
27	初めて	16
28	一向に	14
29	いつも	13
30	全部	12

No.	語句	数
31	遂に	12
32	どうも	12
33	なかなか	12
34	とかく	11
35	なるたけ	11
36	ほとんど	11
37	自ら	11
38	もちろん	11
39	もとより	11
40	一応	10
41	一層	10
42	直ちに	10
43	どうしても	10

⑤動詞の頻度（数値は、使用箇所。降順とする。）

No.	語句	数
1	考え	160
2	始め	22
3	わきまえ	19
4	わからない	18

No.	語句	数
5	使用する	13
6	間違え	11
7	忘れて	11
8	いただく	10

No.	語句	数
9	食べ残	10
10	用いない	10

『夜雨滴録』を読んで、すぐ気がつくのは、副詞の使い方である。10回以上使用される副詞は、43語であり多い感じがする。

動詞は、語尾変化するので、一つの表記形式のみ掲載した。

たとえば「考え」は、「考えだす」「考えている」「考えない」「考える力」など173通りの表記がある。

文末の表現は、です・ます調であり、断定的、指示的な表現が多用されている。こうした説得力のある表記から、教育者としての自信と誇りを感じる。

(3)文末表現（数値は、10回以上使用箇所。降順とする。）

No.	文末表現	数
1	あります。	614
2	ありません。	126
3	なりません。	106
4	申します。	95
5	よいのです。	32
6	まいります。	22
7	存じます。	21
8	いけません。	20

No.	文末表現	数
9	致します。	19
10	できません。	16
11	ございます。	15
12	ございません。	13
13	よいのであります。	13
14	まいりました。	12
15	よろしいのです。	12
16	よくありません。	11

(4)カタカナ表記の一覧（数値は、使用箇所。50音順）

No.	語句表記	数
1	アイロン	1
2	アスパラガス	1
3	アデナウアー氏	1
4	アデナウアー首相	1
5	アナウンサー	2
6	アパート生活	1
7	アメリカ	3
8	イギリス	3
9	エー	10
10	エキス分	1
11	エチケット	5
12	オードブル	1
13	オーバー	12
14	キャラメル	2
15	コース	11
16	コート	1
17	ゴミ処理費	0
18	ジュース	9
19	スープ	11

No.	語句表記	数
20	スープ皿	1
21	スコップ	1
22	ストーブ	4
23	ストロー	5
24	スプーン	14
25	ズボン	2
26	セーター	13
27	セロリー	1
28	ソース	4
29	ソースびん	1
30	ソ連	4
31	チクチク	1
32	チョッキ	1
33	チョットチョット	1
34	テーブル	16
35	デザートコース	1
36	テレビ	2
37	ドイツ	5
38	ドイツ語	1

No.	語句表記	数
39	ドイツ婦人	2
40	ドスン	2
41	ナイフ	31
42	ナブキン	9
43	ノート	2
44	ハァーイ	2
45	ハイ	20
46	バイバイ	1
47	バケツ	2
48	バス	9
49	バター	4
50	バターナイフ	2
51	パン	12
52	ハンカチ	1
53	ビール	1
54	ピストル	1
55	ビタミン料理	1
56	ピョピョ	1
57	ヒョロヒョロ	1
58	ピリピリ	1

No.	語句表記	数
59	フィンガーボール	3
60	フォーク	30
61	ブラウス	1
62	ブラシ	1
63	プラットホーム	2
64	フランス語	1
65	ペン	6
66	ペン書き	3
67	ボール	6
68	ポケット	3
69	ポスト	1
70	ボタン	16
71	ホテル	4
72	マイナス	1
73	モシモシ	1
74	ヨーロッパ戦線	1
75	ヨシヨシ	2
76	ラジオ	3
77	ワイシャツ	3

(5)四字熟語の頻度 (50音順)

No.	語句表記	かなよみ	数
1	愛別離苦	あいべつりく	1
2	一言一行	いちごんいちぎょう	1
3	一言一句	いちごんいっく	1
4	一部始終	いちぶしじゅう	1
5	一挙兩得	いっきりょうどく	1
6	一生懸命	いっしょうけんめい	1
7	一定不變	いっていふへん	2
8	怨憎会苦	おんぞうえく	1
9	会席料理	かいせきりょうり	5
10	懷石料理	かいせきりょうり	3
11	各人各様	かくにんかくよう	1
12	艱難辛苦	かんなんしんく	1
13	虚飾虚栄	きょしきょきょえい	4
14	謹賀新年	きんがしんねん	1
15	勤勉実直	きんべんじっちよく	1
16	輕率粗慢	けいそつそまん	1

No.	語句表記	かなよみ	数
17	山林田畑	さんりんでんばた	1
18	実践躬行	じっせんきゅうこう	2
19	叱咤怒号	しったどごう	1
20	奢侈贅沢	しゃしぜいたく	1
21	自由奔放	じゅうほんぽう	1
22	取捨選択	しゅしゃせんたく	1
23	種々様々	しゅじゅさまざま	1
24	笑止千万	しょうしせんばん	1
25	真実不變	しんじつふへん	2
26	身体強壯	しんたいきょうそう	1
27	誠心誠意	せいしんせいい	1
28	贅沢三昧	ぜいたくざんまい	1
29	粗衣粗食	そいそしょく	1
30	粗製乱造	そせいらんぞう	1
31	男女同権	だんじょどうけん	1
32	智徳兼備	ちとくけんび	1

No.	語句表記	かなよみ	数	No.	語句表記	かなよみ	数
33	天地陰陽	てんちいんよう	1	39	迷惑千万	めいわくせんばん	1
34	同姓同名	どうせいどうめい	1	40	有形無形	ゆうけいむけい	1
35	東奔西走	とうほんせいそう	1	41	有産階級	ゆうさんかいきゅう	1
36	跛行生活	はこうせいかつ	1	42	濫発乱用	らんぱつらんよう	1
37	発明発見	はつめいはっけん	2	43	臨機応変	りんきおうへん	2
38	名所旧跡	めいしょきゅうせき	1	44	老若男女	ろうにゃくなんによ	2

223頁の本文中に44以上の四字熟語を使用している。およそ5頁に一度は四字熟語が出てくることになる。

一般に、漢語調の表記は、下記に示した格言等と並んで、その意味するところを理解するのに時間がかかる。

四字熟語は意図することを簡潔に説明する方法として、著者にとっては身近で好都合なものであるが、その四字熟語の正確な読みを含めて、読書ばなれの激しい現代の大学生には難解な熟語として映るであろう。

(6)紹介されている格言等の一覧（記載はすべて一回）

あ行	「悪妻を娶らば百年の不作」
	「あの家は左まえ」
	「あの人の右に出る人はない」
	「一樹のかげに宿るも前世のちぎり浅からず、一河の流れをくむも他生の縁」と平家物語の作者
	「上見ればあれ星（欲し）これ星星だらけ笠きて暮せ己が心に」
	「お口の小さな赤ちゃんで、大きくおなりになったら、さぞお美しいことでしょう」
	「奢りは身を減ぼす」
	「お多福」
	「恩を仇で返す」
か行	「鴨川の水で洗った京美人」
	「教育とは、習ったことを全部忘れて、残ったものが教育だ」
	「京の着だおれ」
	「きれいな方」
	「口はわざわいの門」
	「君子はこれを己に求め、小人はこれを人に求む」
	「結婚すれば教科書は離縁する」
	「勾欄のもとに、青きかめの大なるを構えて、桜のいみじくおもしろき枝の五尺ばかりなるを、いとおおくさしたる」
	「金剛石も磨かずば」
さ行	「最小の値で最大の効果を得る」
	「魚の懸るのは甘餌による」
	「三度たくめしさえこわし柔らかし、ままにならぬが世の中ののならいかな」
	「親しき仲に礼儀あり」

	「女子の柳腰」
	「女性の最も美しいのは、顔を赤くした時の顔だ」
	「人格は容貌を補う」
た行	「茶禅一味」
	「妻は大事を為すの妨害物なり」
	「とうがらし婦人だ」
	「豚児」
な行	「泣き面を蜂がさす」
	「人間はパンのみにて生くるものにあらず」
	「人情亡国論」
は行	「美人薄命」
	「父母二孝二、兄弟二友二、夫婦相和シ、朋友相信シ、恭儉己ヲ持シ、博愛衆二及ホシ、学ヲ修メ業ヲ習ヒ、以テ智能ヲ啓発シ、徳器を成就シ、進ンテ公益ヲ広メ世務ヲ開キ」
	「文化人の台所には秤がなくてはいけない」
や行	「世渡りの道」
ら行	「老人は若い者をよく知ること若い人はよく老人を知ること」
わ行	「我を忘れる」

(7)語句表記のぶれ (50音順)

あ行	
1	芥溜
	芥溜め
2	あたたかい
	温かい
3	あたりまえ
	当たり前
4	宛名
	あて名
5	雨降り
	雨ふり
6	表し方
	表わし方
7	あわび
	鮑
8	致しましょう。
	いたしましょう。
9	悪戯
	いたずら
10	一向に
	いっこうに

11	一層
	一そう
12	うら書き
	裏書き
13	上着
	上衣
14	お祝い
	御祝
15	置き物
	置物
16	奥様
	奥さま
17	お悔み
	おくやみ
18	奥ゆかしい
	おくゆかしい
	奥床しい
19	落ちついて
	落ち着いて
20	おつとめ
	お勤め

21	お手元
	御手元
22	驚くこと
	驚く事
23	おばあさん
	お婆さん
24	織物
	織り物
か行	
25	掛け替えのない
	かけがえのない
26	肩書
	肩書き
27	格好
	恰好
	かっこう
28	がまん
	我慢
29	紙くず
	紙屑

30	奇麗に
	きれいに
31	心がけましょう。
	心掛けましょう。
32	心がまえ
	心構え
33	こっけい
	滑稽
34	子ども
	子供
35	ご用聞き
	御用聞き
さ行	
36	座ぶとん
	座布団
37	さまざま
	様々
38	しかた
	仕方
39	仕度
	支度
40	しとやか
	淑やか
41	優れた
	すぐれた
42	すこぶる
	頗る
43	贅沢な
	ぜいたくな
44	掃除
	そうじ
45	染め物
	染物
た行	
46	大層
	大そう
47	大てい
	大抵
	たいてい

48	大へん
	大変
49	食べ物
	食べもの
50	誰でも
	だれでも
51	知能
	智能
52	茶わん
	茶碗
53	使い方
	つかい方
54	漬け物
	漬物
55	包み紙
	包紙
56	つまみ物
	つまみもの
57	出来ない
	できない
58	取次
	取り次ぎ
な行	
59	長い間
	永い間
60	永続き
	長続き
61	縫方
	縫い方
62	年令
	年齢
63	乗り物
	乗物
64	乗り物事故
	乗物事故
は行	
65	発憤
	発奮
66	派手な
	はでな

67	はなはだ
	甚だ
68	一人
	ひとり
69	品の良い
	品のよい
70	不作法
	無作法
71	不屈き至極
	不屈至極
72	へだたり
	隔たり
73	坊や
	坊奴
74	誇り
	ほこり
ま行	
75	まことに
	誠に
76	まじめに
	真面目に
77	まっすぐ
	真直ぐ
78	ままならぬ
	ままにならぬ
79	水引
	水引き
80	見はり
	見張り
81	無駄
	むだ
82	むだ話
	無駄話
83	最も
	もっとも
84	物事
	物ごと
	ものごと
85	盛り皿
	盛皿

や行	
86	善いこと
	良いこと
	よいこと
87	汚れ
	よごれ

88	呼び方
	よび方
89	よほど
	余程
90	よろこんで
	喜んで

わ行	
91	私ども
	わたくしども
	私共
92	悪い
	わるい

3. 結びにかえて

語彙分析を通して、安田リヨウの知識の世界が計り知れないほど大きく広いことを知った。しかも、「場合」が101回使用されていることから、事例を挙げて事項の説明が具体的に行われているので、文章が簡潔である。

『夜雨滴録』が刊行された昭和33年は、戦後の復興がようやく一段落するとともに日本経済及び社会の新しい発展に向けて展開しはじめた時期である。第一回学習指導要領の全面改定が実施され学校教育内容の国家管理が始まった年でもある。マスコミについてみれば、テレビ放送がようやく始まった（1953年NHK・日本テレビ、1955年現TBS、1957年現テレビ朝日、1958年東京タワーから放送開始）。

知識や社会情勢の中心となる伝達手段は図書、雑誌、新聞という旧来の印刷資料であった。現在と異なり、図書や雑誌の刊行部数は極めて少なく、しかも地方でそれらを入手することは困難であったと容易に想像できる。

安田リヨウの女子教育に関する観念、主義、主張の出どころは図書を中心とした読書であったことは間違いなからう。

当時73歳であった著者が追究したのは、「身なり」「就職」「結婚」「訪問と接待」「作法と動作」「言葉づかい」「筆づかい」の7つの視点を女子教育の基本的あり方として位置づけ、やがて訪れる経済的・社会的に安定した豊かな社会の到来を見据えたうえで、時代や社会の移り変わりによって決して色褪せることの無い普遍的な女子教育の本質であったことを本書の語彙分析を通して感得した。

4. 参 考 文 献

- (1)安田リヨウ著『夜雨滴録』（初版）安田学園 1958.
- (2)「安田リヨウ生誕130周年記念展記録」安田学園 2015.5.

〔2015. 6. 25 受理〕